

# 来・ぶらり

普段利用している図書館について改めて知ってもらおうと、3名の学生に図書館を探検してもらいました。



ブラウジングホールからスタート



図書館にロッカーがあったんだ



研究紀要を初めて手に取りました



集密書架 OPEN!



個室研究室を使ってみました

## 集密書架って？

電動式の書架で、政府刊行の白書や統計資料、製本雑誌などを収蔵しています。

## 研究紀要って？

大学や研究機関などが出している、教員や研究員の研究内容が書かれた論文が掲載された定期刊行物

## 勉強のモチベーションが上がりやす



▲永長さんの好きな場所  
語学のコーナー

★「Lレサービス」…本学の図書館が所蔵していない資料について、他大学図書館等から現物を借り受けたり、必要箇所のコピーを取り寄せたりすることがあります。

永長……最近、「Lレサービス」で取り寄せた資料をキヤレラデスクで読んでまとめています。半個室みたいになっていて、パソコンも使えるので。

近藤……勉強するときや、本を読むときに閲覧席を利用します。窓側の席が好きです。私はゼミの課題のためにパソコンを使うので、「コンセプトのあるブラウジングホール」の閲覧席を使っています。

肥田木……勉強するときや、本を読むときに閲覧席を利用します。窓側の席が好きです。私はゼミの課題のためにパソコンを使うので、「コンセプトのあるブラウジングホール」の閲覧席を使っています。

近藤……いつも使うところが決まっていたので、集密書架とか、個室研究室とか知らなかったところがありました。

永長……新しい発見はありましたが、知らないことの方が多かったです。いつも閲覧席くらいしか利用してなかったです。

肥田木……集密書架があるのは知っていたんですけど、どうやって使っているのかわからなかったんです。今回使った方がわかりました。研究紀要の棚も知ることができたので、卒論作成に使いたいと思いました。

近藤……今回図書館を探検してみて、新しい発見がありましたか？

肥田木……新しい発見はありましたが、知らないことの方が多かったです。いつも閲覧席くらいしか利用してなかったです。

永長……集密書架があるのは知っていたんですけど、どうやって使っているのかわからなかったんです。今回使った方がわかりました。研究紀要の棚も知ることができたので、卒論作成に使いたいと思いました。



▲肥田木さんの好きな場所  
閲覧室窓側の閲覧席



▲近藤さんの好きな場所  
ブラウジングホールの閲覧席

## 図書館が一番集中できます

周りで勉強している人に刺激を受けます

永長……「学生リクエスト」をおすすめしたいです。卒論関係で使っています。もっと早く知って使えば良かったなと思っていて…。他の人にもぜひ使ってもらいたいです。

近藤……「OPAC」です。家でも利用できる。図書館に行かなくても、本があるかどうかを確認できる場所があるかどうかが確認できる場所が便利です。

肥田木……新聞コーナーですね。一、二年生のころ新聞を使う講義があったので、こういうコーナーがあることを知ってほしいと思います。

みんなに知ってほしい！  
おすすめの場所やサービスを教えてください。

★OPAC：図書館蔵書検索システム。インターネットからアクセス、利用できます。  
★学生リクエスト：図書館未所蔵の資料について、購入をリクエストすること。

あなたも図書館探検してみませんか？

# Camellia Vol.10

## —図書館広報紙—

感染症と人類  
続く歩み、光をかかげて



## [CONTENTS]

コラム：感染症と人類 ……P.2~3  
来・ぶらり ……P.4

# 感染症と人類

本号のテーマにちなんだコラムと  
当館所蔵図書をご紹介します。

## 毎日毎日コロナ

教授 永松 敦 (専門: 民俗学/言語・文化専攻)

コロナによる長く苦しい生活の制限がようやく緩和され、明るさを取り戻しような雰囲気となりました。でも、いつの世でも疫病に苦しむ時代はありました。しかも、医者もなく病院もない時代には、人々はどのように病気を治したり、免れたりしようとしていたのでしょうか？ 今もその名残があるのでしょうか？

疫病除けの祭りでよく知られているのは京都の祇園祭です。九州では福岡市の博多祇園山笠が有名ですが、これも京都と同じ祇園祭りです。この祭礼は豪華な山鉾や山笠が街中を巡行する都市の祭礼なのです。特に、京都の祇園祭りは「粽」を撒くことが重要となります。京都の人々はこの粽を正月のしめ飾りのように、玄関に飾る習慣があるのです。この粽には、餅が入っていません。茅でつくった粽の皮の部分だけなのです。ここで重要なことは、中国の粽(ツォン)を日本語で「ちまき」と発音したこと。すなわち、ちまきは茅巻きのことなのです。茅をちと発音します。日本では茅が病気除け、魔よけの植物として信仰されました。では、茅とは何でしょう…？ 茅は特定の植物を指すわけではありません。ススキ、アシ、チガヤ、スゲなどの植物で、茅葺屋根に利用される植物なのです。ほとんどがイネ科の植物です。

みなさんは、ちまきと聞くと、すぐに子どもの日を思い浮かべるでしょう。確かに、ちまきは大切な端午の節句の食べ物です。でも、5月5日は今の新暦ではなく旧暦で行うので、いまのカレンダーだと6月初め頃になるのです。季節的には梅雨入りしてじめじめして疫病の流行りや

すい時期となります。だから、五月晴れという言葉の本来の意味は、梅雨の合間の晴れ間であって、現在のゴールデン・ウィークのあのすがすがしい青空ではありません。疫病から祇園祭りへと話を進めてきましたが、季節的には旧暦5月5日(現在では6月初め)〜祇園祭り(旧暦6月15日、現在では7月中旬)の約1か月もの期間、疫病除けをしていたこととなります。その恐れを喜びに変えるために、おいしい食べ物としてのちまきが生まれ、派手派手しい祭礼としての祇園祭りが誕生したのです。

学生のみなさんたちが2年近く(あるいはまだまだ忍耐が必要かも知れませんが)耐え抜いてきた鬱憤を、どのように晴らすのか？そして、どのような新しい文化を築いていくのか楽しみにしたいものです。



年行事事典—日本の心を伝える  
/野本寛一編/岩崎書店  
<参図: 386.1 || N94>

## ウイルスとの共存: 運動と免疫機能に関するJ曲線から

教授 宮元 章次 (専門: スポーツ・健康科学/メディア・コミュニケーション専攻)

パンデミックと化した COVID-19ですが、重要なポイントは正しい情報を収集し、正しい理解を深め、日々変化する感染状況を見極めて対応することです。ここでは、運動と免疫機能、新型コロナウイルス mRNA ワクチン、及び微生物の役割の3つを紹介します。

一つ目は、感染症のリスクをエクササイズ(運動量)(運動強度×時間)から推定していくと、エクササイズの低い運動不足者と、逆にエクササイズの高い競技者では感染症のリスクが高く、23エクササイズ(適度な運動)に達してフィッテネスのある人では感染症のリスクが低いことが明らかになっています。

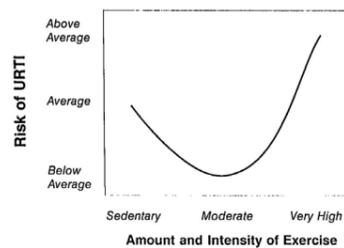


Figure 1—U-shaped model of relationship between varying amounts of exercise and risk of URTI. This model suggests that moderate exercise may lower risk of respiratory infection while excessive amounts may increase the risk.

Nieman DC. Med Sci Sports Exerc 26:128-139, 1994.

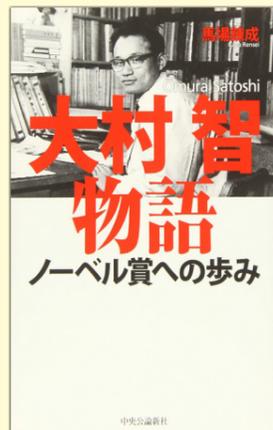
これを年代別にみると、フィッテネスは若年期に高くなり、30歳代後半から低くなります。従って、高齢者がワクチンを接種していない状態で感染症のリスクが高くなるのはフィッテネスが低下しているからです。フィッテネスを維持・増進するためにはニコニコベースの運動を行いましょう。

二つ目は、ワクチンとは何かというと、感染症のウイルスに対する免疫をつけたり、免疫を強めたりすることで、個人の発症や重症化を予防するためのものです。

今回のコロナウイルスの遺伝情報として、ウイルスがスパイクを持っています。ヒトの細胞にスパイクを通してくっついて体内に入

ります。そこで、ワクチンの接種によりスパイクたんぱく質に対する抗体(免疫)を持つことで、ウイルスが細胞に入らないようにしています。また、インフルエンザワクチンの有効性は40%~60%ですが、mRNAワクチンを2回接種すると有効性は95%と言われています。ただし、症状として接種部の痛み80%、発熱33%、疲労感や倦怠感60%がみられています。

三つ目は微生物の役割です。ノーベル賞を受賞した大村智教授は微生物が作り出す物質を見つけて薬に役立てる研究をしてきました。研究の一つにイベルメクチンの開発があり、熱帯地方で多くの失明を防いでいます。現在、国内で承認されたコロナ治療薬には軽症患者に処方できる薬がありませんので、この薬への期待が高まっています。最後に、「大村智物語: ノーベル賞への歩み」を紹介します。大村教授は山梨大学を卒業し、高校の教師をした後、研究の道に入りました。人間を磨き・人間を育てる、科学と芸術のつながり等が紹介されています。科学に興味のある人は読んでみると良いかもしれません。



大村智物語 ノーベル賞への歩み  
/馬場錬成著/中央公論新社  
<閲覧室: 289.1 || B12>

## コロナ危機に挑んだ専門家たちのドラマ

准教授 下村 太一 (専門: 政治学/国際政治経済専攻)

コロナ危機は政治と科学の微妙な関係を浮き彫りにした。専門家が科学的知見に基づいて、政治家に助言を行う。政治家はそれを参考にして判断を下し、その結果に責任を持つ。それが政治家と専門家の理想の関係であろう。だが、コロナ危機においては、政府の政策決定プロセスが見えにくく、あたかも専門家が対策を決定しているかのようなイメージが広がった。そのことは、社会の不満の矛先が専門家に向かうことにもつながったのである。

河合香織『分水嶺 ドキュメント コロナ対策専門家会議』は、政府のコロナ対策専門家会議に関わった専門家たちの議論と葛藤を描いたノンフィクションである。専門家会議は2020年2月に設置され、同年7月までの約5カ月間活動した。専門家会議には感染症の専門家に加えて、医療社会学者や日本医師会の代表、弁護士、経済学者などが参加した。

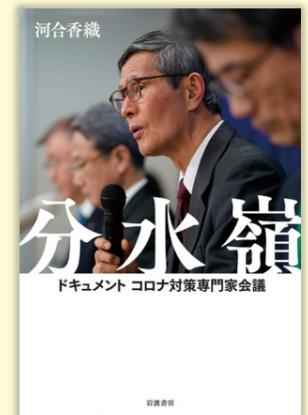
専門家たちの前には多くの壁が立ちただかった。「無謬性の原則」を背負う官僚組織は、市民の不安をおおるからという理由で、リスク情報の発信には消極的な態度を取った。専門家の間にも、感染症対策の考え方や市民への情報の伝え方をめぐって亀裂が生まれた。最大の問題は、専門家会議の法的な位置づけが明確ではなかったことである。

そのため、専門家会議は責任を引き受けたくない政治家に都合良く利用され、批判の矢面に立たされた専門家たちは心身ともに疲弊した。

しかし、専門家たちは「前のめり」との

そしりを受けながらも怯むことなく、市民に対してメッセージを発信し続けた。また、政治家や官僚との信頼関係の維持に苦心しつつ、譲れないところは主張し、政府の対策に自分たちの意見を粘り強く反映させようとした。専門家会議では、自由闊達に議論する雰囲気が最後まで失われなかったという。彼らの行動を支えていたのは、強い危機感と使命感であった。

本書の中で、専門家会議の副座長を務めた尾身茂は「サイエンスというのは失敗が前提。新しい知見が出てくれば、前のものは間違っていたということになる」と語っている。間違っただけではいけないと考える政治や行政とは異なり、間違ったときに失敗を率直に認めて修正できるのが科学の強みである。社会の中で科学はどのような役割を果たすべきか。政治と科学の葛藤をどう考えれば良いのか。そうした問題を問いかける一冊である。



分水嶺 ドキュメント コロナ対策専門家会議  
/河合香織著/岩波書店  
<閲覧室: 498.6 || ka93>